

1. 調査の概要

<調査の目的>

「(仮称)三田市人と人との共生条例」や今後改定を行う「三田市人権施策基本方針」の関係資料とするため、多様化する人権課題の現状や市民意識の把握を目的として実施することにした。

<実査概要>

- 1 調査実施時期：2020年6月2日～2020年6月30日
- 2 対象者：三田市在住の18歳以上の市民3000人
- 3 対象者の抽出法：年代ごとに人数を割り当て、住民基本台帳より無作為に抽出
- 4 対象者へのアプローチの方法：郵送法、締め切り前に、調査協力のお礼を兼ねた督促状を1回送付
- 5 回収状況：詳細は下記のとおりです。
有効回収数 1420 有効回収率 47.3%

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答	合計
抽出数	315	465	445	445	445	445	440		3000
抽出比率	10.5	15.5	14.8	14.8	14.8	14.8	14.7		99.9
回収数	128	175	179	195	218	266	237	22	1420
年代比率	9.0	12.3	12.6	13.7	15.4	18.7	16.7	1.5	99.9
年代ごと有効回収率	40.6	37.6	40.2	43.8	49.0	59.8	53.9		47.3

6 備考

度数分布内での縦横の合計が、端数調整の関係で100%にならない場合があります。

2変数間の関連を検討するうえで、クロス集計と χ^2 (カイ二乗)検定を行います。その場合、統計的有意差ありの表記を以下のとおりとします。

統計的有意水準をp値と表します。2変数間に関連があると仮説を立てた場合に、p値が.05よりも小さければ、関連ありとの解釈が可能であるということです。関連の強さについて以下のように表記します。

$p \leq .001$ *** $.001 < p \leq .01$ ** $.01 < p \leq .05$ * $p > .05$ -

統計的検定を行う際は、「無回答」は分析から省くため、合計値は異なってきます。

0 回答者の基本属性

(1) 回答者の性別

回答者の性別は、男性 630 人 (44.4%)、女性 763 人 (53.7%)、そして、「答えることができない・答えたくない」12 人 (0.8%) となっています。

2020 年 4 月末時点の三田市における人口は、男性 54,004 人 (48.5%)、女性 57,352 人 (51.5%) であり、今回の回答者は市の男女比よりも、幾分、女性の比率は高いものの大きな隔たりとは言えません。

表 0-1 性別

	度数	パーセント
男性	629	44.3
女性	763	53.8
答えることができない・答えたくない	12	.8
無回答	15	1.1
合計	1419	100.0

なお、以下では、「答えることができない・答えたくない」という人びとを「性別未選択者」と、便宜的に表記することをお断りさせていただきます。

(2) 回答者の年齢

表 0-2 は、標本抽出における各年代の人数と、調査に協力いただいた方々の年代ごとの人数と比率を一覧にしたものです。

表 0-2 年齢

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答	合計
抽出数	315	465	445	445	445	445	440		3000
抽出比率	10.5	15.5	14.8	14.8	14.8	14.8	14.7		99.9
回収数	128	175	179	195	218	266	237	22	1420
年代比率	9.0	12.3	12.6	13.7	15.4	18.7	16.7	1.5	99.9
有効回収率	40.6	37.6	40.2	43.8	49.0	59.8	53.9		47.3

当初の標本抽出数よりも、10 歳代から 40 歳代において比率が低くなっており、50 歳代から 70 歳代以上において比率が高くなっています。できるだけ若い世代の方々の意見をお聴かせいただきたいとの考えから各年代の標本抽出数をほぼ同じにしたのですが、若い世代の方々からの回収数が少なく、回収率が低い結果となりました。

とはいえ、当初の標本抽出数を年代ごとにほぼ均等割にしたことにより、10 代、20 代の回収数が 100 を超えたことは、以下の統計的処理を行ううえで意味があります。

(3) 回答者の職業

表 0-3 は、職業分布です。ただ、職業は、性別、年齢によって差が大きいと考えられることから、表 0-4 のとおり、性別、年齢別の職業分布を示します。

表 0-3 回答者の職業

		度数	パーセント
有効	自営業	72	5.1
	自由業	14	1.0
	公務員・教員（研究員含む）	61	4.3
	民間企業・団体の経営者・役員	35	2.5
	民間企業・団体の正規職員	323	22.7
	非正規職員	285	20.1
	学生（浪人生含む）	167	11.8
	無職（専業主婦、年金生活者、就活中を含む）	427	30.1
	その他	14	1.0
	無回答	22	1.5
	合計	1420	100.0

なお、以下の分析では職業を簡略化して表記することをお断りしておきます。

表 0-4

F1 性別	合計	F3 職業										
		自 営 業	自 由 業	教 員 ・ 研 究 員	公 務 員 ・ 役 員	経 営 者 ・ 職 員	正 規 職 員	非 正 規 職 員	学 生	無 職	そ の 他	無 回 答
男性	合計	629	7.8%	0.6%	4.6%	4.8%	34.2%	11.0%	12.7%	23.4%	0.6%	0.3%
	10歳代	58	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	1.7%	93.1%	3.4%	0.0%	0.0%
	20歳代	73	4.1%	1.4%	2.7%	0.0%	38.4%	9.6%	35.6%	6.8%	1.4%	0.0%
	30歳代	77	10.4%	1.3%	10.4%	3.9%	66.2%	2.6%	0.0%	2.6%	1.3%	1.3%
	40歳代	82	9.8%	2.4%	7.3%	8.5%	56.1%	8.5%	0.0%	6.1%	0.0%	1.2%
	50歳代	88	9.1%	0.0%	9.1%	8.0%	64.8%	5.7%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%
	60歳代	130	10.8%	0.0%	3.1%	5.4%	23.1%	28.5%	0.0%	28.5%	0.8%	0.0%
	70歳代以上	121	6.6%	0.0%	0.8%	5.0%	1.7%	8.3%	0.0%	76.9%	0.8%	0.0%
女性	合計	760	2.9%	1.1%	3.9%	0.7%	13.9%	28.2%	11.4%	36.1%	1.3%	0.5%
	10歳代	69	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	1.4%	4.3%	87.0%	5.8%	0.0%	0.0%
	20歳代	99	2.0%	2.0%	5.1%	0.0%	33.3%	16.2%	27.3%	10.1%	4.0%	0.0%
	30歳代	99	1.0%	0.0%	10.1%	0.0%	24.2%	35.4%	0.0%	26.3%	3.0%	0.0%
	40歳代	112	3.6%	0.9%	5.4%	1.8%	24.1%	35.7%	0.0%	25.9%	0.0%	2.7%
	50歳代	130	3.1%	2.3%	6.2%	1.5%	10.8%	50.8%	0.0%	23.8%	0.8%	0.8%
	60歳代	135	5.2%	0.0%	0.7%	0.7%	5.2%	33.3%	0.0%	54.1%	0.7%	0.0%
	70歳代以上	116	3.4%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	7.8%	0.0%	87.1%	0.9%	0.0%

表 0-4 によると、男女とも 10 歳代では、「学生」の比率が高くなっています。また、20 歳代の男性の 35.6%、女性の 27.3%は、「学生」と回答しています。男性では、30 歳代から 50 歳代まで、正規職、自営業、公務員・教員等の正規の有職者が 9 割を超えています。

女性では、20 歳代で、正規職、公務員・教員等の正規の有職者が約 4 割ですが、30 歳代以降では正規の有職者よりも非正規職と無職の比率が高く、50 歳代では非正規職が 50%を超えています。

(4) 回答者の居住地域

表 0-5 は、回答者の居住校区の分布です。ただ、極端に少人数の校区があることから、以下のクロス集計では、表 0-6 の行政区分を用いることをお断りしておきます。

表 0-5 居住校区

	度数	パーセント
三田小学校区	158	11.1
松が丘小学校区	61	4.3
志手原小学校区	15	1.1
三輪小学校区	105	7.4
広野小学校区	57	4.0
小野小学校区	25	1.8
母子小学校区	4	.3
高平小学校区	35	2.5
藍小学校区	26	1.8
つつじが丘小学校区	89	6.3
本庄小学校区	23	1.6
武庫小学校区	99	7.0
狭間小学校区	71	5.0
弥生小学校区	36	2.5
富士小学校区	68	4.8
けやき台小学校区	142	10.0
すずかけ台小学校区	108	7.6
あかしあ台小学校区	115	8.1
ゆりのき台小学校区	76	5.4
学園小学校区	48	3.4
無回答	59	4.2
合計	1420	100.0

表 0-6 行政区分

	度数	パーセント
三田地区	158	11.1
三輪地区	181	12.7
広野地区	57	4.0
小野地区	29	2.0
高平地区	35	2.5
藍地区	26	1.8
本庄地区	23	1.6
フラワータウン地区	274	19.3
ウッディタウン地区	441	31.1
カルチャータウン地区	48	3.4
つつじが丘地区	89	6.3
無回答	59	4.2
合計	1420	100.0

2. 人権全般について

**問1 あなたは、次のことがらは、「人権が尊重されている」ことだと思われませんか。
(それぞれ一つに○をつけてください)**

問1では、市民の方々が、「人権が尊重されている」とは、どういうことを意味すると考えておられるのかを問うています。

設問者は、「人権が尊重されていること」として、「2 だれもが最低限の生活が保障されること」、「3 だれもが差別されることなく生きやすいこと」、「5 個人としての自由な生き方が尊重されること」、「6 人とのちがいが大切にされること」の設問を用意し、これらの4問に「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」との回答を期待しました。

回答の結果は、「2 だれもが最低限の生活が保障されること」は、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると 93.8%、「3 だれもが差別されることなく生きやすいこと」96.2%、「5 個人としての自由な生き方が尊重されること」90.9%、そして、「6 人とのちがいが大切にされること」91.7%となっています。圧倒的に多数の方々が、「人権が尊重されている」ことの意味を理解されていると言えます。とはいえ、これら4問について、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」との回答が10%未満ではあっても存在しています。

ところで、「1 周りの人から思いやりや優しさをかけられること」に「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と合わせると 86.9%になります。確かに、日常生活の中で、だれしも、周りの人から思いやりや優しさをかけられると、自分を助けてくれる人がいると思えて心が温かくなります。だれかから思いやりや優しさをかけられることはとてもありがたいことです。しかし、人から思いやりや優しさをかけられることは、厳密な意味での「人権が尊重されていること」とは異なります。

もう1点の「4 競争による勝ち負けがまったくなく、みんな同じ評価がされること」については、回答に困られた方も少なくないかと思います。この設問については、回答者の受け取り方によって「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」とに分かれるものと思われます。すなわち、「競争をなくして、みんな同じ評価がされること」が良いと捉えている方は、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と回答されたのではないかと推察します。他方、「競争による勝ち負けをなくす」ことに疑問を抱いた方は、「どちらかと言えばそうは思わない」、「そうは思わない」と回答されたのではないかと推察します。「競争によって勝敗をつけること」は良くないことなのかどうか？ 良くないとは言えないならば、どのような条件であれば、競争は是と言えるのか、この点を確認する必要があるようです。他方、「みんな同じ評価がされること」という点について、「何について同じ評価がされること」が重要なのかという点を明確にする必要があります。いずれにせよ、「4 競争による勝ち負けがまったくなく、みんな同じ評価がされること」は、「人権が尊重されている」と言えるのかどうかの判断は難しい設問です。

表 1-1 の右端の数値は、各項目への回答について人権意識が高いほど点数が高いように点数化して、回答者全員の平均値を求めたものです。無回答は集計から省いています。

具体的には、「2 だれもが最低限の生活が保障されること」、「3 だれもが差別されることがなく生きやすいこと」、「5 個人としての自由な生き方が尊重されること」、「6 人とのちがいが大切にされること」については、「そう思う」4、「どちらかと言えばそう思う」3、「どちらかと言えばそうは思わない」2、「そうは思わない」1となります。「1 周りの人から思いやりや優しさをかけられること」、「4 競争による勝ち負けがまったくなく、みんな同じ評価がされること」については人権の理解とは言い切れないことから、評価はしないでおきます。点数が高い項目ほど「人権が尊重されている」ことの意味が市民の間で理解されていると解されます。

表 1-1

	合計	そう 思う	言 え ば そ う と 思 う	ど ち ら か と 言 え ば そ う と 思 わ ない	言 え ば そ う と 思 わ ない	そ う は 思 わ ない	無 回 答	平 均 値
1 周りの人から思いやりや優しさをかけられること	1420	51.1%	35.8%	7.7%	4.3%	1.1%		
2 だれもが最低限の生活が保障されること	1420	66.8%	27.0%	3.8%	1.8%	0.6%		3.6
3 だれもが差別されることがなく生きやすいこと	1420	77.5%	18.7%	2.3%	1.2%	0.3%		3.7
4 競争による勝ち負けがまったくなく、みんな同じ評価がされること	1420	12.8%	17.3%	35.5%	33.7%	0.7%		
5 個人としての自由な生き方が尊重されること	1420	57.1%	33.8%	6.5%	1.8%	0.8%		3.5
6 人とのちがいが大切にされること	1420	61.3%	30.4%	5.4%	2.5%	0.4%		3.5

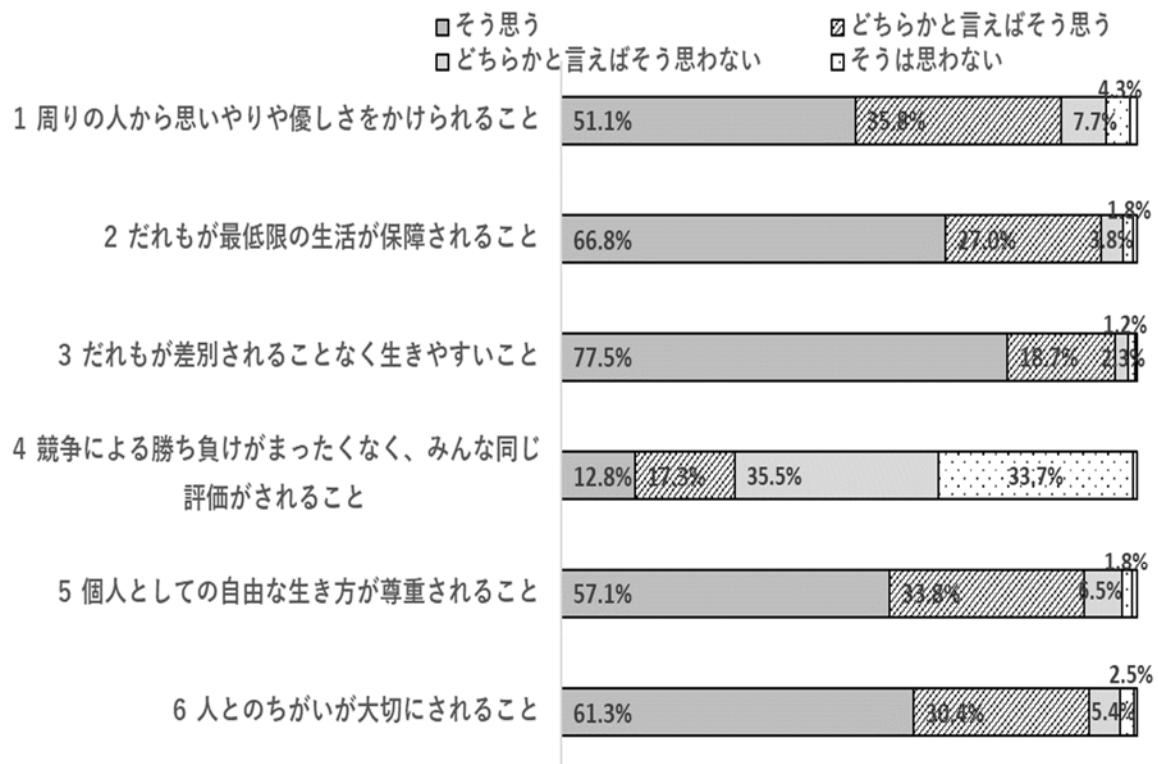


図 1-1

表 1-2 は、性別と「人権が尊重されている」こととの関連について集計したものです。
 なお、性別の無回答者は集計から省いています。

表 1-2

		合計	そう思う	どちら そう 思う え	どちら そう 思 わ な い え	そう は 思 わ な い	無 回 答
1 周りの人から思いやりや優しさを かけられること	男性	630	46.7%	37.8%	10.0%	4.9%	0.6%
	女性	763	54.9%	33.9%	5.8%	3.9%	1.4%
	性別未選択者	12	33.3%	50.0%	8.3%	0.0%	8.3%
	合計	1405	51.0%	35.8%	7.7%	4.3%	1.1%
2 だれもが最低限の生活が保障される こと	男性	630	64.1%	27.0%	5.6%	2.5%	0.8%
	女性	763	69.2%	26.9%	2.2%	1.3%	0.4%
	性別未選択者	12	75.0%	16.7%	8.3%	0.0%	0.0%
	合計	1405	67.0%	26.8%	3.8%	1.9%	0.6%
3 だれもが差別されることなく生き やすいこと	男性	630	73.8%	21.7%	2.5%	1.7%	0.2%
	女性	763	80.5%	16.4%	2.0%	0.8%	0.4%
	性別未選択者	12	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	1405	77.5%	18.8%	2.2%	1.2%	0.3%
4 競争による勝ち負けがまったくなく、 みんな同じ評価がされること	男性	630	10.8%	16.2%	32.4%	40.0%	0.6%
	女性	763	14.8%	18.2%	38.0%	28.2%	0.8%
	性別未選択者	12	8.3%	8.3%	33.3%	50.0%	0.0%
	合計	1405	13.0%	17.2%	35.4%	33.7%	0.7%
5 個人としての自由な生き方が尊重され ること	男性	630	53.3%	37.5%	6.7%	2.1%	0.5%
	女性	763	60.4%	30.4%	6.6%	1.4%	1.2%
	性別未選択者	12	66.7%	25.0%	0.0%	8.3%	0.0%
	合計	1405	57.3%	33.5%	6.5%	1.8%	0.9%
6 人とのちがいが大切にされること	男性	630	54.8%	33.8%	8.1%	3.2%	0.2%
	女性	763	66.6%	27.7%	3.1%	2.0%	0.7%
	性別未選択者	12	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	1405	61.4%	30.3%	5.3%	2.5%	0.4%

ただ、表 1-2 を眺めるだけでは、個々の項目について、性別によって「人権が尊重されている」ことの認識に差があるのかどうかは判断できません。

性別と個々の項目が「人権が尊重されている」ことの認識と関連があると言えるかどうかを確認するには、統計的検定という手続きを行う必要があります。

基本属性と「人権が尊重されている」ことについての個々の項目との間に関連があると言えるかどうかの判断を行うために、統計的検定の手法の一種である χ^2 検定という方法を用いることにします。 χ^2 検定を行ううえで、「無回答」は分析から省く必要があります。

また、性別未選択者が12人（0.8%）と極めて少数であって、このままでは統計的検定に過度の影響を及ぼす可能性のあることが危惧されることから、性別に関わる統計的検定においては本来であれば分析から省くのですが、実態を捉えるうえで重要であるとの判断から省かないこととお断りしておきます。

表 1-3-1 は、性別と「人権が尊重されている」ことの認識と関連について統計的検定を行ったものです。

表 1-3-1

			そ う 思 う	言 え ば 思 う	ど ち ら か と 思 わ な い	言 え ば そ う と	ど ち ら か と 思 わ な い	そ う は 思 わ な い	有 意 差 検 定
1 周りの人から思いやりや優しさをかけられること	男性	626	47.0%	38.0%	10.1%	5.0%		p=.010 *	
	女性	752	55.7%	34.4%	5.9%	4.0%			
	性別未選択者	11	36.4%	54.5%	9.1%	0.0%			
	合計	1389	51.6%	36.2%	7.8%	4.4%			
2 だれもが最低限の生活が保障されること	男性	625	64.6%	27.2%	5.6%	2.6%	p=.015 *		
	女性	760	69.5%	27.0%	2.2%	1.3%			
	性別未選択者	12	75.0%	16.7%	8.3%	0.0%			
	合計	1397	67.4%	27.0%	3.8%	1.9%			
3 だれもが差別されることなく生きやすいこと	男性	629	73.9%	21.8%	2.5%	1.7%	p=.092		
	女性	760	80.8%	16.4%	2.0%	0.8%			
	性別未選択者	12	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%			
	合計	1401	77.7%	18.8%	2.2%	1.2%			
4 競争による勝ち負けがまったくなく、みんな同じ評価がされること	男性	626	10.9%	16.3%	32.6%	40.3%	p<.001 ***		
	女性	757	14.9%	18.4%	38.3%	28.4%			
	性別未選択者	12	8.3%	8.3%	33.3%	50.0%			
	合計	1395	13.0%	17.3%	35.7%	33.9%			
5 個人としての自由な生き方が尊重されること	男性	627	53.6%	37.6%	6.7%	2.1%	p=.043 *		
	女性	754	61.1%	30.8%	6.6%	1.5%			
	性別未選択者	12	66.7%	25.0%	0.0%	8.3%			
	合計	1393	57.8%	33.8%	6.6%	1.8%			
6 人とのちがいが大切にされること	男性	629	54.8%	33.9%	8.1%	3.2%	p<.001 ***		
	女性	758	67.0%	27.8%	3.2%	2.0%			
	性別未選択者	12	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%			
	合計	1399	61.7%	30.5%	5.4%	2.5%			

表 1-3-2 は、表 1-3-1 において、統計的有意差が認められた項目について平均値を示しています。